

第1章 都市の現状と課題

1.都市の現状	4
2.都市の特性と問題点	11
3.都市づくりの課題	13

第1章 都市の現状と課題

1 都市の現状

(1) 概況

本市は大阪府の北東部に位置し、東西4.9km、南北4.3km、面積は12.28km²で標高は低く平坦地で、周囲は大阪市、守口市、寝屋川市、大東市と隣接しています。

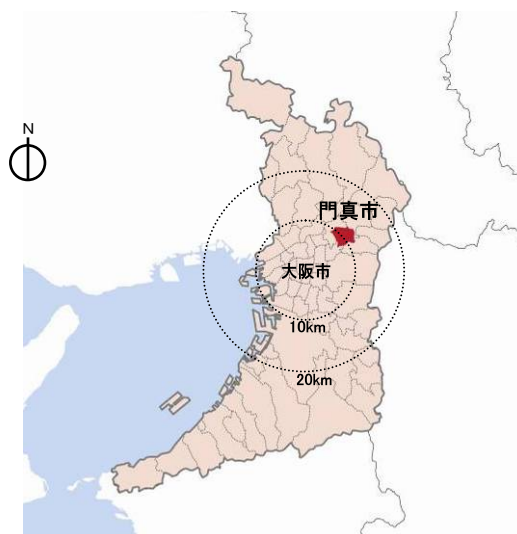
歴史の歩みをみると、本市は豊かな河内の穀倉地帯と水運に恵まれていたことから、米ばかりではなく、特産物である「門真れんこん」が全国に出荷されていました。

昭和14年に町制を布き、昭和31年9月30日には町村合併促進法により、当時の大和田村、四宮村、二島村の三村を編入合併して新しい門真町が誕生しました。その後、昭和38年8月1日には人口66,582人をもって単独市制を実施し、大阪府内では27番目、全国において556番目の都市として発足しました。

高度経済成長期には、大都市への人口集中の波が押し寄せ、昭和8年に誘致された松下電気器具製作所（現パナソニック株式会社）は世界的な大企業に躍進するとともに、下請・関連工場も増加しました。

以来、人口は急激に増加し、昭和40年10月には全国一の増加率（178.2%）を示すなど住宅需要が高まり、市北部地域の農業地帯は広範囲において過密な住宅市街地に転換され、「住宅・産業都市」へと変貌した本市は、東大阪工業地帯の中軸としての地位を占めるに至りました。その後、本市の人口は平成2年（142,297人）をピークに減少傾向が続いており、平成22年の国勢調査では130,282人となっています。

また、本市は大阪市内から10km以内に位置し、大阪府内でも有数の交通環境に恵まれた好位置にあります。公共交通は京阪電鉄をはじめ、大阪モノレールや地下鉄長堀鶴見緑地線が走り、幹線道路は国道163号及び大阪中央環状線が通り、さらに、平成22年には第二京阪道路が開通したことで、アクセス性に優れた交通網が形成されており、本市産業の更なる発展に大きな役割を果たしています。

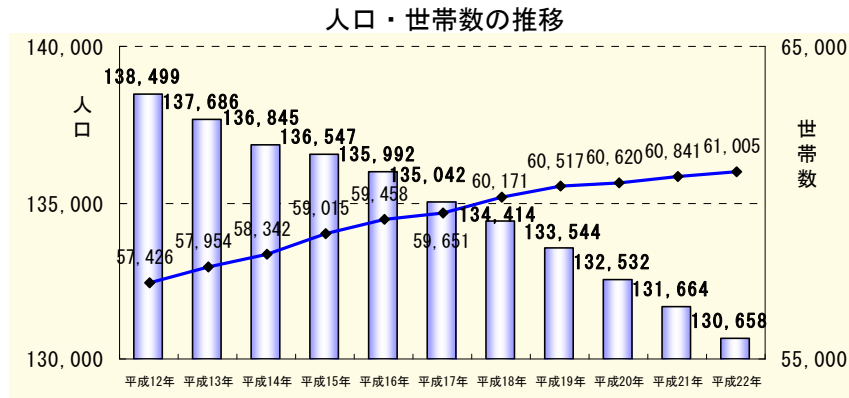


門真市の位置

(2) 人口・世帯

1) 人口・世帯数

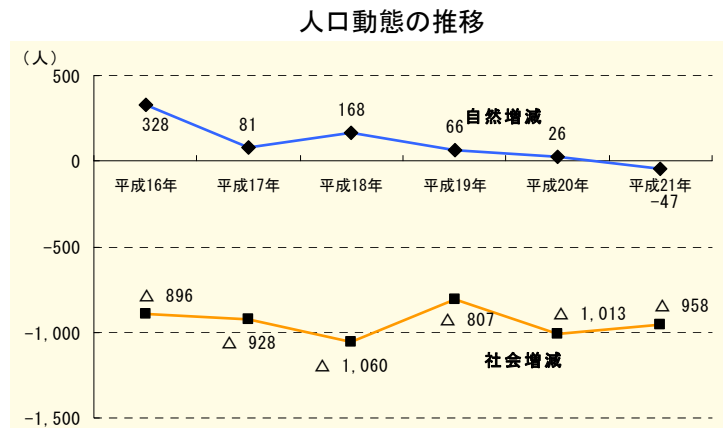
- 平成12年以降の人口は減少傾向にあり、世帯数は増加傾向にあるものの、その伸びは鈍化しています。



資料：住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく数値（各年10月1日現在）

2) 人口動態

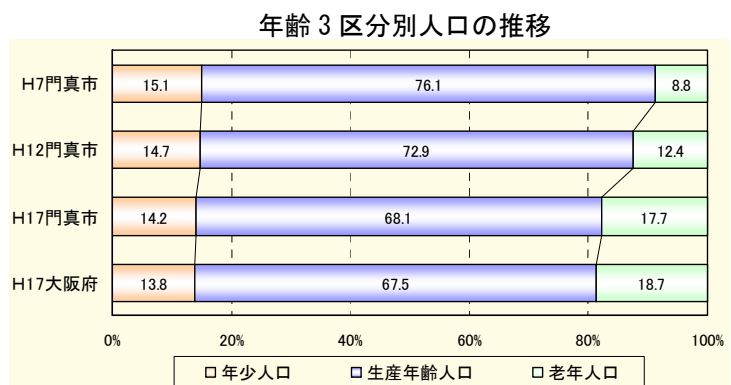
- 平成16年～21年の人口動態は、自然動態（出生-死亡）が平成21年で死亡数が出生数を上回っています。社会動態（転入-転出）は転出数が転入数を上回る傾向が続いています。



資料：門真市統計書

3) 年齢別人口

- 年齢3区分別人口は、年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）が減少傾向、老年人口（65歳以上）は増加傾向にあります。



資料：国勢調査（各年10月1日現在）

4) 町別人口

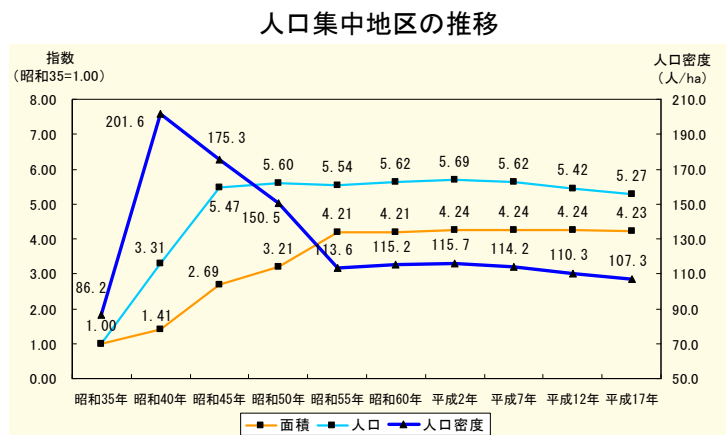
- 平成17年～22年の町別人口（住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく）の推移を地域別にみると、南西地域が増加、北西・北東・南東地域は減少しており、減少率は北東地域が最も高くなっています。
- 町別にみると、北東地域の京阪大和田駅周辺の市街地で、特に人口減少が進んでいます。また、減少率が著しいのは、北西地域の京阪古川橋駅周辺の古川町、寿町及び南東地域の岸和

田1～4丁目、千石西町となっています。

- 平成22年の高齢化率（住民基本台帳法及び外国人登録法に基づく65歳以上の人口割合）は、北西地域の京阪門真市駅、古川橋駅周辺の泉町、堂山町及び南東地域の千石東町、千石西町で30%を超えており、特に門真市駅、古川橋駅周辺での高齢化が進んでいます。

5) 人口集中地区

- 近年の人口集中地区の面積は横ばい、人口は減少傾向にあり、人口密度は平成17年で107.3人/haと高密度な市街地が形成されています。



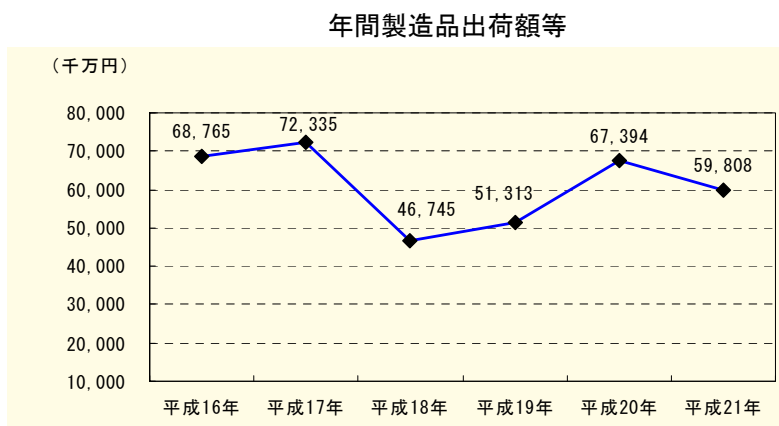
注：人口集中地区とは、国勢調査基本単位区及び基本単位区内に複数の調査区がある場合は、調査区を基礎単位として、原則として人口密度が1km²当たり4,000人以上の基本単位区等が市区町村の境域内で互いに隣接して、それらの隣接した地域の人口が国勢調査時に5,000人以上を有する地域

資料：国勢調査（各年10月1日現在）

(3) 産業

1) 工業

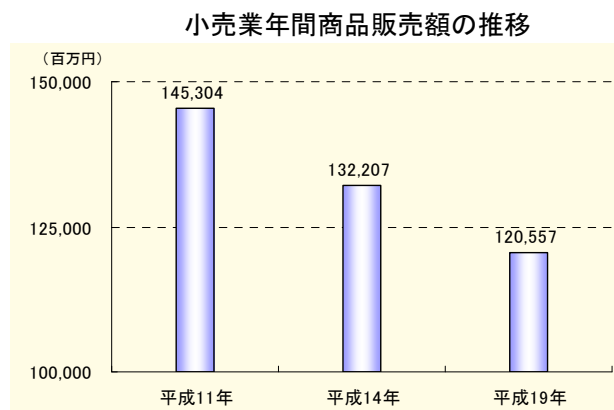
- 平成21年の年間製造品出荷額等は約5,981億円で、平成20年からわずかに減少しています。



資料：工業統計調査

2) 商業

- 平成19年の小売業年間商品販売額は約1,206億円で、その推移をみると減少傾向にあります。



資料：商業統計調査

(4) 歴史・観光資源

- 指定文化財は、国指定3件、府指定3件があります。
- 主要な観光施設には、願得寺、薫蓋クス、砂子水路の桜などがあります。特に砂子水路の桜は水路と一体となって良好な水辺景観を形成しています。

指定文化財一覧

区分	分野	種別	名称	所在地
国指定	重要文化財	美術工芸品	太刀（銘長光）	-
	天然記念物	記念物	「薫蓋（くんがい）クス」（薫蓋樟） 	三島神社境内
	登録文化財	建造物	願得寺 	御堂町
府指定	有形文化財	建造物	願得寺	御堂町
	史跡	記念物	伝茨田堤（でんまんだのつつみ） 	宮野町
	天然記念物	記念物	葎島（ひえじま）のクス 	大字葎島

(5) 景観

- 本市では、「大阪府景観計画」において、第二京阪道路、大阪中央環状線沿道が景観計画区域に指定され、良好な景観を形成するため、大規模な建築物及び工作物について景観形成基準が定められています。

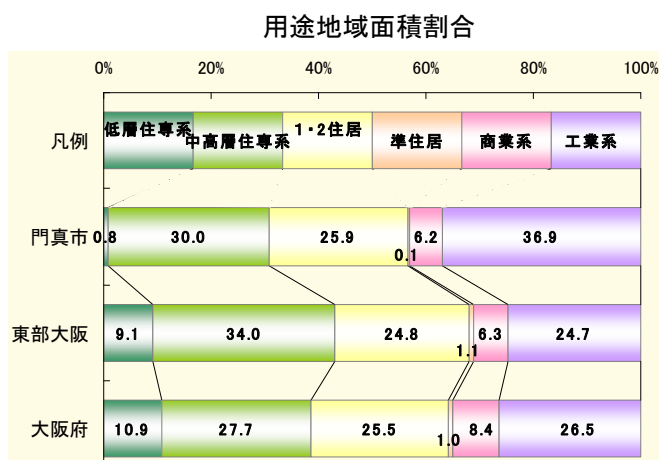
(6) 土地利用

1) 土地利用現況

- 平成17年～21年の土地利用（各年1月1日現在の課税地）の推移は、宅地が増加、田・畑の農地は減少しています。
- 平成22年の耕作放棄地率（平成22年世界農林業センサス2月1日現在）は4.6%と大阪府平均（4.4%）とほぼ同様ですが、大阪府内では比較的上位にあります。

2) 用途地域面積

- 平成22年の用途地域指定状況は、東部大阪及び大阪府平均と比較して、低層住居専用系（第1種低層住居専用地域）の割合が低く、工業系（準工業地域・工業地域）の割合が高くなっています。工業系用途地域のなかでは準工業地域の割合が高くなっています。



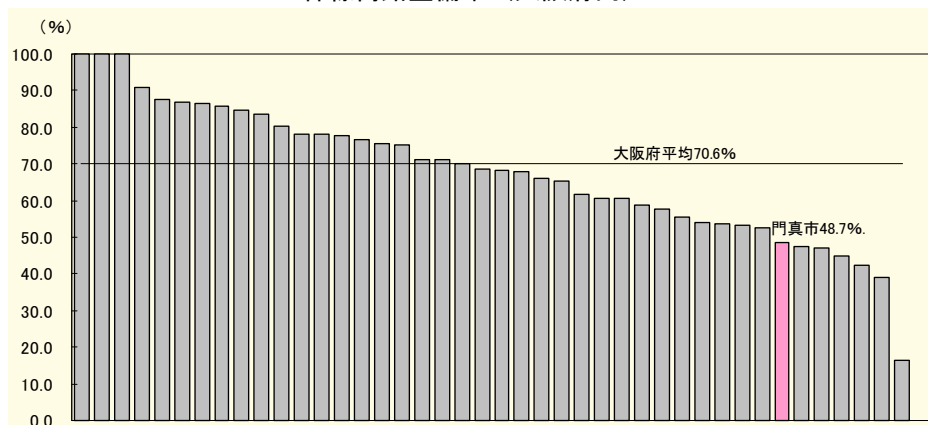
資料：都市計画年報（平成22年3月末現在）

(7) 都市施設

1) 道路・公共交通

- 平成22年の幹線街路の改良率は、48.7%と大阪府内では下位にあります。
- 鉄道は、京阪電鉄本線（西三荘駅、門真市駅、古川橋駅、大和田駅、萱島駅）、地下鉄長堀鶴見緑地線（門真南駅）、大阪モノレール（門真市駅）が通っています。バスは、京阪バスが門真市駅、古川橋駅、大和田駅、門真南駅、門真団地を起終点に市内を網羅し、近鉄バスが萱島駅を起点に、近鉄荒本駅等を経由し近鉄八尾駅まで運行しています。

幹線街路整備率（大阪府内）

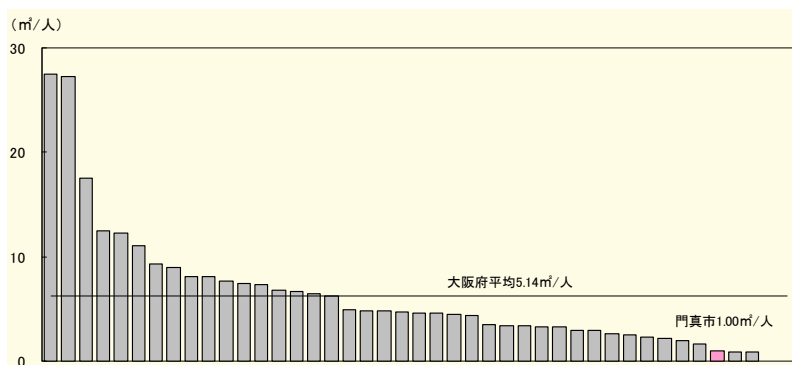


注：自動車専用道路を除く幹線街路の計画延長に対する改良済・概成済延長の割合
資料：都市計画年報（平成22年3月末現在）

2) 公園・緑地

- 平成21年の市民一人当たりの都市公園面積は1.00㎡/人と大阪府内では下位にあります。

一人当たり都市公園面積（大阪府内）

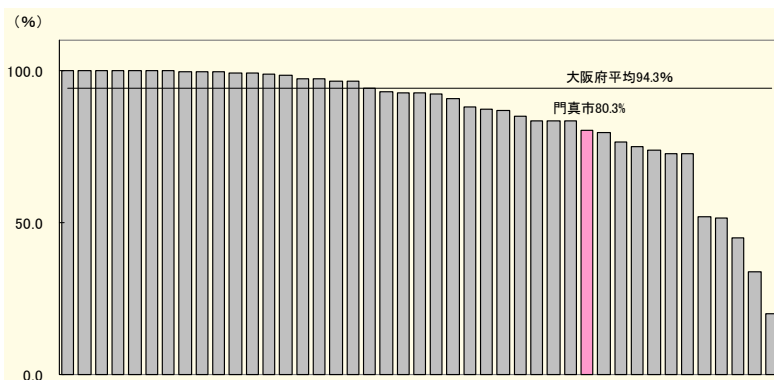


資料：大阪府都市公園一覧表（平成21年3月末現在）

3) 下水道

- 平成23年の下水道整備人口普及率は80.3%と比較的高い割合を示しているものの、大阪府内では下位にあります。国道163号南側の第二京阪道路沿道周辺を中心に未整備区域が広がっています。

下水整備人口普及率（大阪府内）

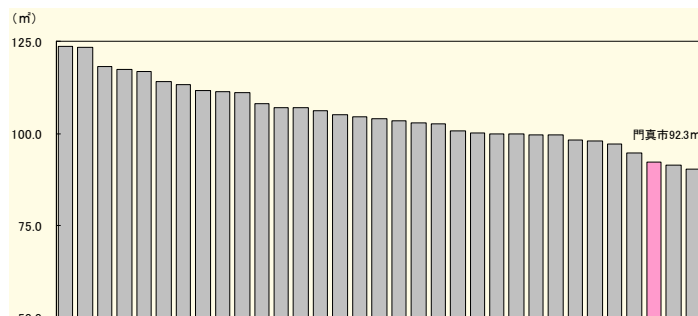


資料：大阪府都市整備部下水道室事業課（平成23年3月末現在）

(8) 市街地・住宅

- 国道163号以北の区域は住宅市街地総合整備事業整備計画区域で、その一部市街地は重点密集市街地（137ha）に位置づけられています。
- 平成20年の持ち家率は48.3%で、大阪府内（市部平均52.7%）では下位にあります。
- 持ち家1住宅当たりの延べ床面積は92.3㎡で、大阪府市部では下位にあります。
- 平成20年の空き家率は19.1%で、大阪府内（市部平均17.0%）では上位にあります。
- 平成14年における市街化区域内の緑被率は7.8%で、大阪府内（平均13.9%）では下位にあります。

持ち家1住宅当たり延べ床面積（大阪府市部）

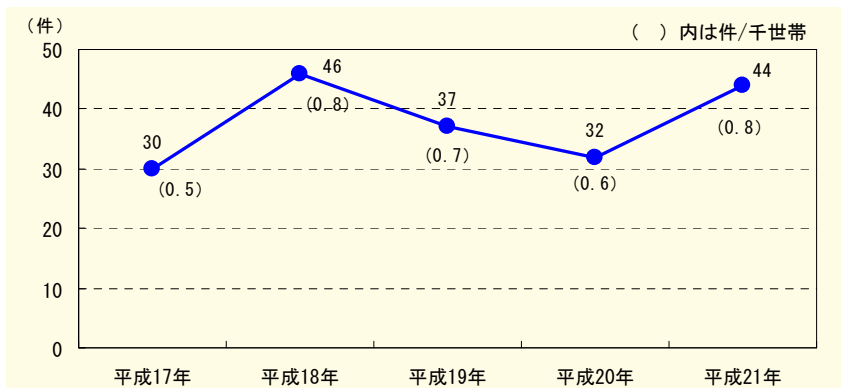


資料：住宅・土地統計調査（平成20年10月1日現在）

(9) 火災・交通事故

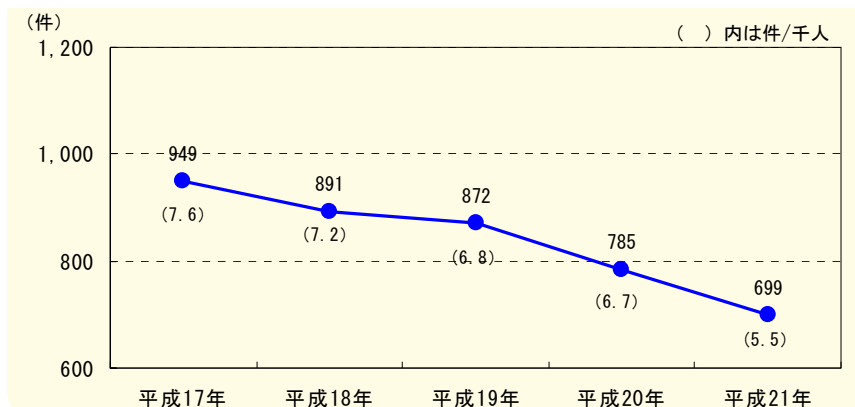
- 平成21年における建物火災発生件数は0.8件/千世帯で平成20年から増加し、大阪府平均（0.5件/千世帯）を上回っています。
- 平成21年における交通事故発生件数は5.5件/千人で近年減少傾向にあり、大阪府平均（5.9件/千人）を下回っています。

建物火災発生件数の推移



注：世帯数は大阪府推計世帯
資料：守口市門真市消防組合消防本部

交通事故発生件数の推移

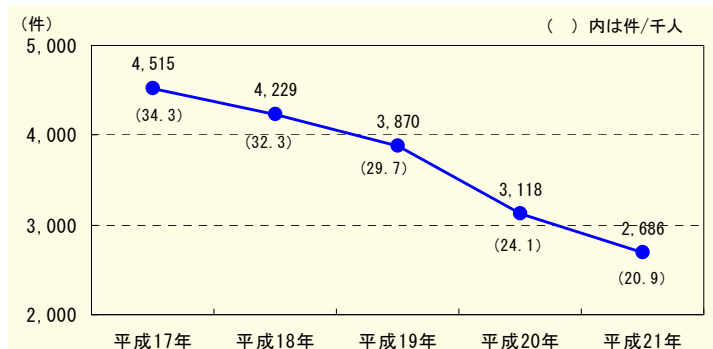


注：人口は大阪府推計人口
資料：門真警察署

(10) 犯罪

- 平成21年における刑法犯認知件数は20.9件/千人で近年減少傾向にあり、大阪府平均（20.7件/千人）と同様の割合を示しています。

刑法犯認知件数の推移



注：人口は大阪府推計人口
資料：門真警察署

2 都市の特性と問題点

統計データなどからみた本市の特性と問題点及び市民アンケート調査結果は以下のとおりです。なお、市民アンケート調査（以下「市民アンケート」という。）は、市民の意向等を門真市都市計画マスタープランの改定に反映させていくため、平成22年11月に、市民2,665人を対象として実施したもので、回収率は35.4%となっています。

項目	特性と問題点	市民アンケート結果	
人 口	<ul style="list-style-type: none"> 人口は減少傾向、世帯数は微増傾向にある。 自然動態はマイナスに転じ、社会動態は1,000人程度のマイナスが続いている。 少子高齢化が進行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 定住意向は約53.7%で、平成10年の市民意識調査（46.7%）、平成21年の第5次総合計画（50.3%）と比較すると増加傾向にある。 北東地域では定住意向が低い。 「住み続けたい」は“福祉・医療、防災・防犯対策が充実しているため”が多く、「住み続けたくない」、「どちらともいえない」は安全面の確保の意向が多い。 若い世代における定住施策は、子育て支援や商業地の充実などの意向が多い。 	
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> 農地が減少しており、耕作放棄地率は4.6%で大阪府内では比較的上位にある。 人口集中地区の人口密度は減少傾向にあるものの、107.3人/haで比較的高密度である。 	—	
道路・交通	道 路	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画道路の改良率（概成済含む）は48.7%で大阪府内では下位にある。 千人当たりの交通事故発生件数は5.5件で大阪府平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自転車道、身近な生活道路の整備」の意向が多い。
	公 共 交通等	<ul style="list-style-type: none"> 京阪門真市駅で大阪モノレールが結節し、その他鉄道駅は京阪西三荘駅、古川橋駅、大和田駅、萱島駅と地下鉄門真南駅がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「駅周辺の放置自転車対策」の意向が多い。
公園・緑地	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人当たりの都市公園面積は1.00㎡で大阪府内では下位にある。 市街化区域内の緑被率は7.8%で大阪府内では下位にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子どもが安心して遊べる公園」の意向が多い。 「市街地の緑化」の意向が多い。 	
下水道 ・河川	<ul style="list-style-type: none"> 下水道整備人口普及率は80.3%と大阪府内で下位にある。 河川・水路が市内を網羅している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「河川・水路の水質浄化」の意向が多い。 	
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> 市役所、文化施設、保健・福祉施設等の公共施設は、門真市駅、古川橋駅周辺に立地している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「多世代が交流できる福祉施設の充実」の意向が多い。 	

項目		特性と問題点	市民アンケート結果
市街地	商業地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道駅周辺では人口が減少している。 ・ 小売業年間商品販売額は約1,206億円で減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日用品の買い物については、最寄りの店舗、市の中心的な商業地での買い物が多く、特に、西部の地域では半数を超える割合となっている。 ・ 非日用品の買い物については、市内が約7割を占め、南東地域では市内の幹線道路沿道が多い。 ・ 「身近な店舗の充実」の意向が多い。
	工業地	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間製造品出荷額等は約5,981億円で平成20年からわずかに減少している。 ・ 工業系用途地域面積の占める割合は36.9%で、大阪府平均を上回っている。 	—
住宅地		<ul style="list-style-type: none"> ・ 低層住居専用地域の占める割合は0.8%で大阪府平均を下回っている。 ・ 持ち家率は48.3%で大阪府内（市部）では下位にある。 ・ 持ち家住宅の延べ床面積は92.3㎡で、大阪府内（市部）では下位にある。 ・ 空き家率は19.1%で大阪府内（市部）では上位にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「防災・防犯など安全な住宅」、「空き家住宅などの活用や安全管理」、「住宅のバリアフリー化」の意向が多い。
観光・レクリエーション等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化財は国3件、府3件が指定されている。 ・ 願得寺、薫蓋クス、砂子水路の桜などを有している。 	—
景観等	景観	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「大阪府景観計画」において第二京阪道路と大阪中央環状線沿道地域が景観計画区域に指定されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ゆとりある住宅地景観」の意向が多い。
	環境		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「環境に配慮した都市基盤施設の整備」の意向が多い。
都市防災	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部地域の市街地の一部は、重点密集市街地に位置づけられている。 ・ 千世帯当たり建物火災発生件数は0.8件で大阪府平均を上回っている。 ・ 準防火地域を防火地域以外の市街化区域全域に指定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市の将来像は、「安心、安全に暮らせるまち」の意向が多い。 ・ 「地震等における防災体制の充実」の意向が多い。 ・ 「密集市街地の改善」の意向が多い。
	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・ 千人当たり刑法犯認知件数は20.9件で大阪府平均と同様の割合となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「公共施設の防犯対策の充実」の意向が多い。

注：市民アンケート結果欄の「—」は、調査を行っているものの、「特性と問題点」の内容との関連性が低い、または、該当していないことを示すものです。

3 都市づくりの課題

都市づくりの課題については、都市の現状と動向、市民アンケート調査結果等を踏まえて、以下のように整理されます。

(1) 定住魅力の創出

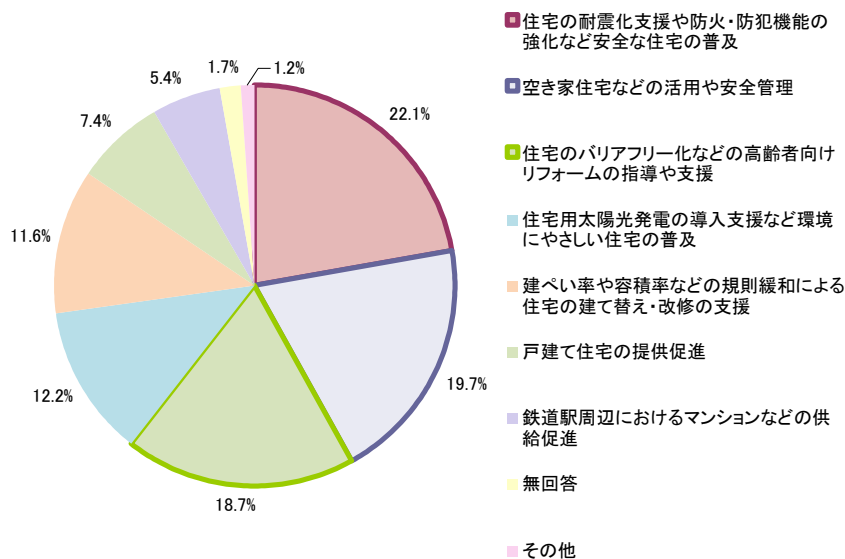
1) 住宅地の改善

本市の持ち家率は48.3%、1住宅当たりの延べ床面積は92.3㎡と大阪府内で下位にあり、また、空き家率は19.1%と大阪府内で上位にあります。

市民アンケートでは、『住宅の取り組み』について、「安全な住宅の普及」、「空き家住宅などの活用や安全管理」、「高齢者向けリフォームの指導や支援」などが多くなっています。また、『市街地改善の取り組み』や定住意向別（住み続けたくない・どちらともいえない）の『定住促進に必要な施策』については、「密集市街地の改善」が特に多くなっています。

このため、安全で安心な住宅の普及や密集市街地の解消などの改善とともに、空き家住宅の活用などに取り組んでいく必要があります。

住宅の取り組みについて



2) 環境にやさしいまちづくりの推進

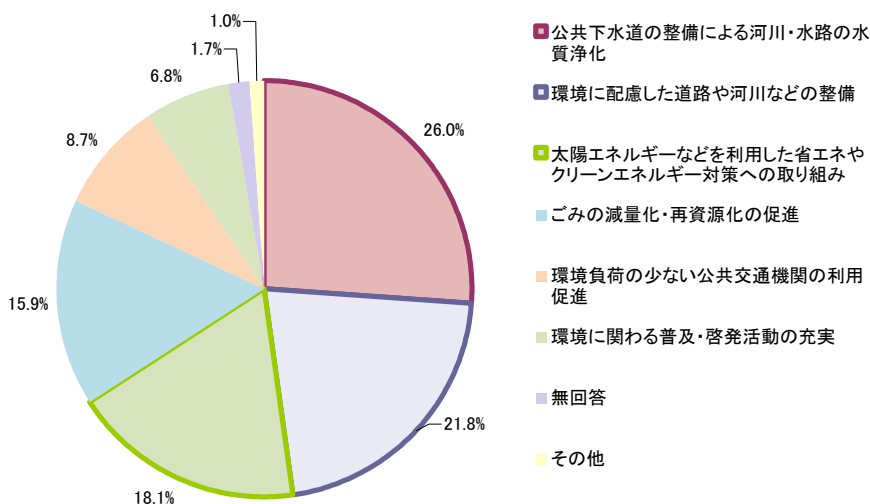
第二京阪道路及び大阪中央環状線沿道は、大阪府の「みどりの大阪推進計画」に基づき「みどりの風促進区域」に指定されています。

また、地球環境問題の深刻化に伴い、全国的に環境への負荷の少ない低炭素社会をめざしたまちづくりが推進されており、大阪府では「地球温暖化対策地域推進計画」に基づく取り組みが進められています。

市民アンケートでは、『環境の取り組み』について、「環境に配慮した道路や河川などの整備」、「省エネやクリーンエネルギー対策への取り組み」、「ごみの減量化・再資源化の促進」が多くなっています。

このため、資源循環・低炭素化の促進など、環境にやさしいまちづくりを推進する必要があります。

環境の取り組みについて



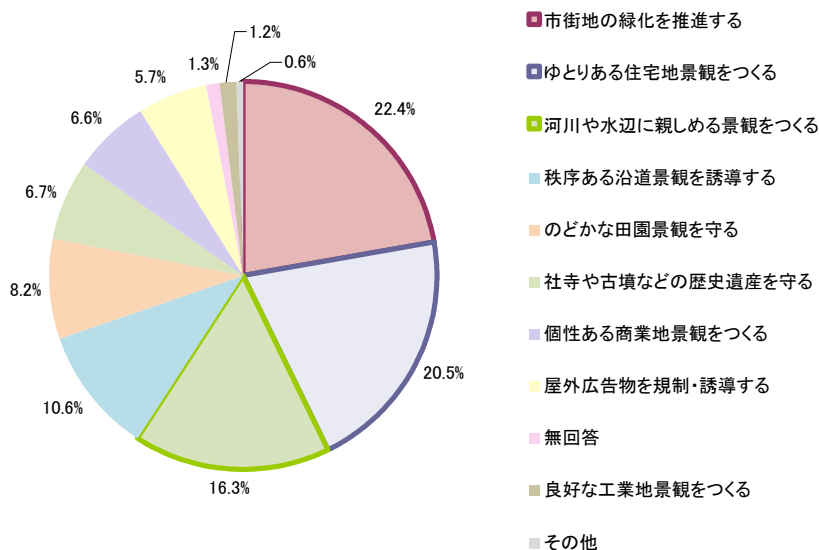
3) 地域資源の保全・活用と景観の形成

本市は、国指定文化財である願得寺をはじめ、「大阪みどりの百選」の薫蓋クス、砂子水路の桜などがあります。

市民アンケートでは、『景観の取り組み』について「市街地の緑化を推進する」、「ゆとりある住宅地景観をつくる」、「河川や水辺に親しめる景観をつくる」が多くなっています。

このため、人口減少が進む本市では、歴史文化遺産や河川・水路等を活用し、水辺景観の形成や住宅地景観を形成するなど、門真市の居住魅力を高めていく必要があります。

景観の取り組みについて



(2) 暮らしやすい生活環境の確保

1) 生活基盤施設の充実

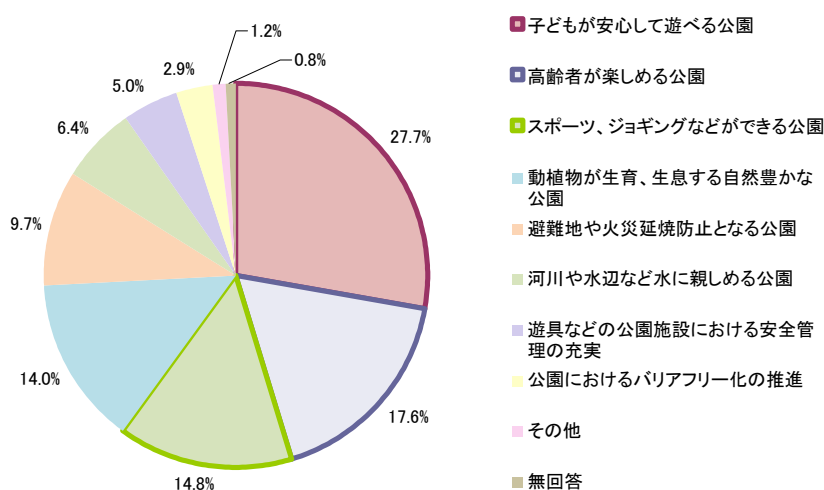
本市には、比較的大規模な弁天池公園や府立門真スポーツセンター「なみはやドーム」などが整備されています。

市民一人当たりの都市公園面積は1.00㎡、下水道普及率は80.3%と、いずれも大阪府内で下位にあります。

市民アンケートでは、『公園の取り組み』については、「子どもが安心して遊べる公園」、「高齢者が楽しめる公園」が特に多く、身近な公園の確保が求められています。また、『環境の取り組み』について、「河川・水路の水質浄化」が最も多くなっています。

このため、身近な公園や下水道、河川など生活基盤施設の充実に取り組む必要があります。

公園の取り組みについて



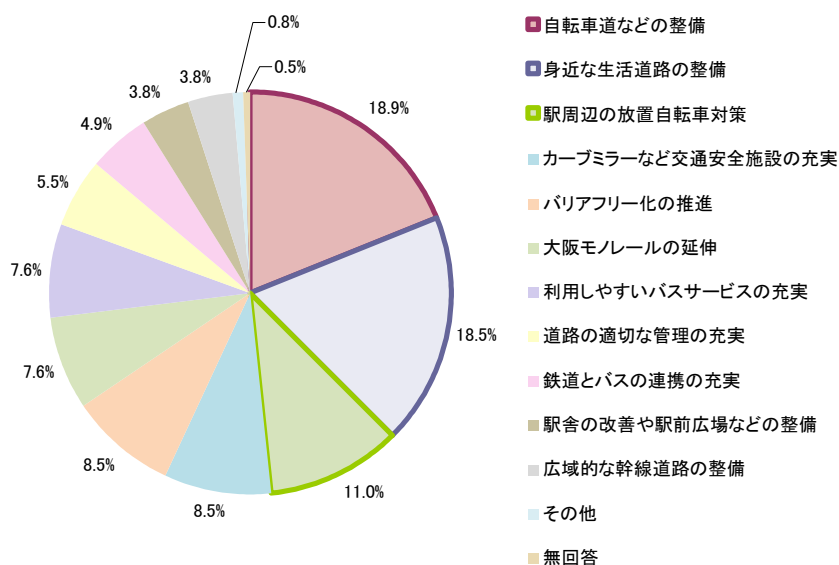
2) 安全で利便性の高い生活交通の確保

本市では、第二京阪道路をはじめ、大阪中央環状線、国道163号が整備されており、広域的な幹線道路は比較的充足しています。しかし、計画的に開発された住宅団地以外の既成市街地などでは幅員の狭い生活道路が比較的多く見られます。鉄道は京阪電鉄本線、大阪モノレール、地下鉄長堀鶴見緑地線が通り、路線バスは京阪バスが京阪門真市駅、古川橋駅、大和田駅及び地下鉄門真南駅、門真団地を起終点とする路線ルート、また、近鉄バスは萱島駅と近鉄荒本駅等や近鉄八尾駅等を結ぶ路線ルートが市民の日常生活に欠かせない交通手段となっています。

市民アンケートでは、『道路・交通の取り組み』として、「自転車道などの整備」、「身近な生活道路の整備」が特に多く、また、「大阪モノレールの延伸」、「利用しやすいバスサービスの充実」なども多く、公共交通の利便性が求められています。

このため、身近な生活道路における安全性の確保や鉄道・バスの充実など、交通環境の向上に努める必要があります。

道路・交通の取り組みについて



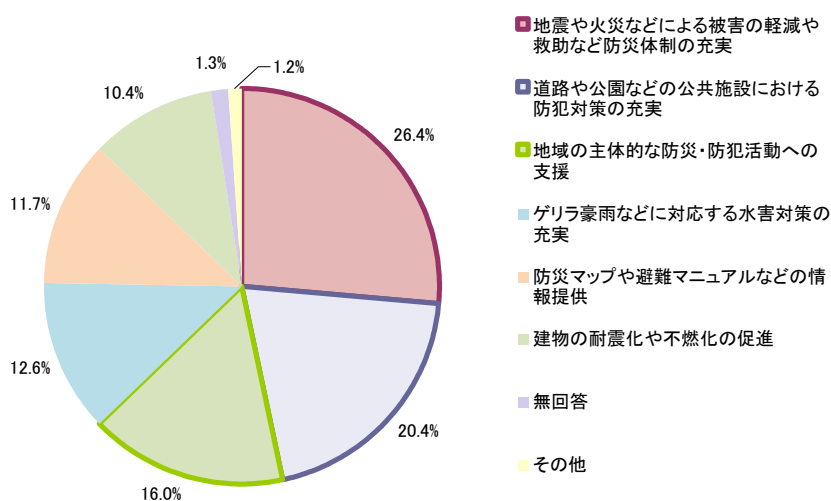
3) 市民の安全・安心の確保

本市の北部市街地は全域が密集市街地で、一部の区域は重点密集市街地に位置づけられています。今後、発生が懸念されている東南海・南海地震などの災害時には大きな被害を招く恐れがあります。こうした災害における被害を軽減するために、密集市街地の解消が求められています。

市民アンケートでは、『市の将来像』について「安全に暮らせるまち」、また、『防災・防犯の取り組み』について「防災体制の充実」、「防犯対策の充実」が特に多くなっています。さらに、転出意向における『定住促進に必要な施策』については「安全な市街地の形成」が最も多く、「防犯・防災対策の充実」も多い傾向にあります。

このため、市民と市役所が一体となって安全で安心な市民生活を確保する必要があります。

防災・防犯の取り組みについて



(3) 賑わいと活力のある地域産業の振興

1) 賑わいのあるまちの顔づくりと交流の促進

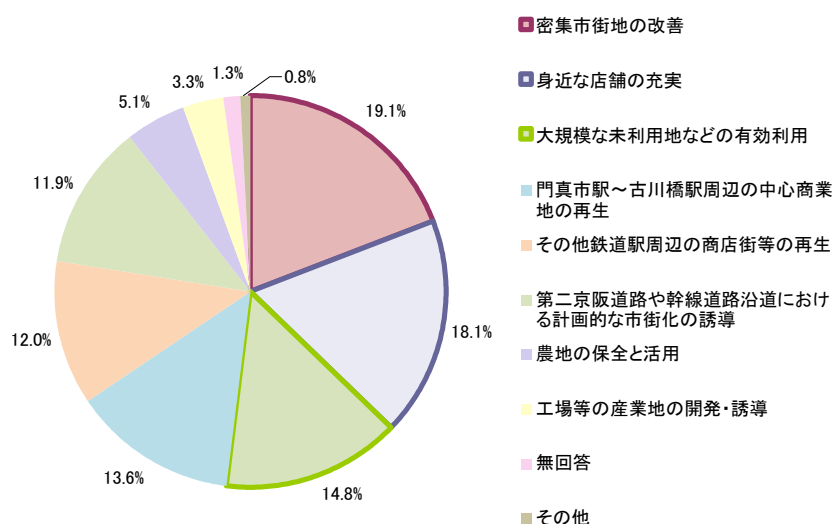
本市の中心商業地は京阪門真市駅～古川橋駅周辺で形成されており、その他鉄道駅周辺では地域商業地が形成されています。市民アンケートにおける買い物実態では、日用品においては鉄道駅周辺が46.8%、市内幹線道路沿道が7.8%、非日用品においては、鉄道駅周辺が40.1%、市内幹線道路沿道が29.8%となっており、鉄道駅周辺における購買率は比較的高くなっています。

市民アンケートでは、『市街地改善の取り組み』について、「身近な店舗の充実」が比較的多くなっています。

このため、門真市駅～古川橋駅周辺の中心商業地においては、その魅力を一層高めていくとともに、その他鉄道駅周辺における地域商業地の充実にも努める必要があります。

また、人口減少や地域経済の低迷などに対応していくため、本市固有の歴史文化遺産の有効活用により観光の振興を図るとともに、観光を通じて広域的な人々の交流を促進し、交流人口の増加をめざす必要があります。

市街地改善の取り組みについて



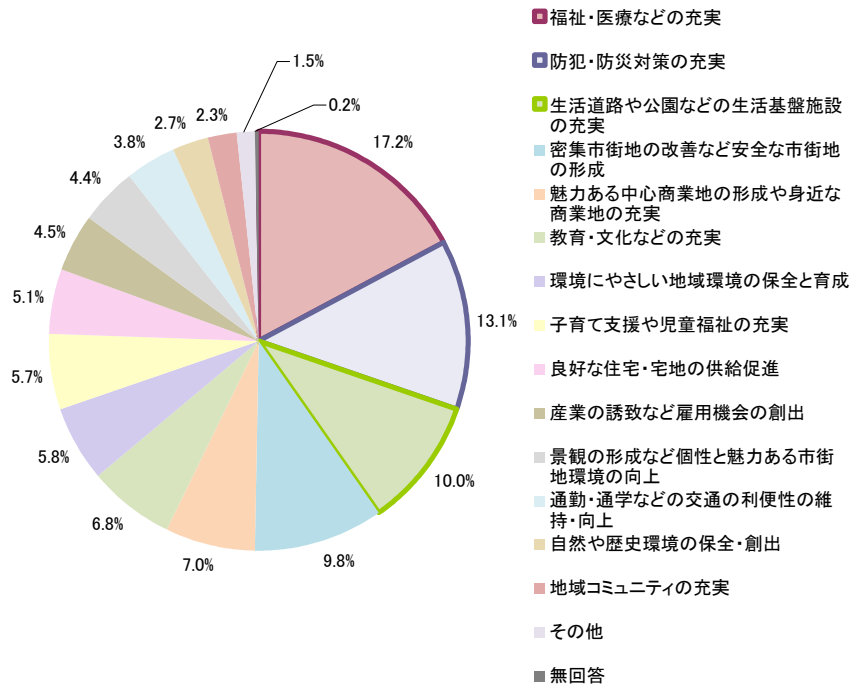
2) 操業環境の維持・向上

本市では、工業系用途地域面積の占める割合が36.9%で大阪府平均を上回っています。当該用途地域では、国内外でも有数の企業等が多く立地していますが、年間製造品出荷額等はわずかに減少しています。

市民アンケートでは、『定住促進に必要な施策』について、「産業の誘致など雇用機会の創出」は比較的低い傾向にありますが、50歳代及び南東地域で多い傾向にあり職住近接を求めていることがうかがえます。

このため、住宅と工場等が混在する準工業地域では、周辺の住環境に配慮しつつ、既存工場における操業環境の維持・向上を図る必要があります。

定住促進に必要な施策について



3) 広域幹線道路沿道における計画的なまちづくり

第二京阪道路沿道の市街化調整区域では、第二京阪道路の開通に伴い、開発ポテンシャルが高くなっています。当該区域においては未利用地等が見られ、無秩序な開発を防止するため、公民協働により土地利用の検討に取り組んでいます。

市民アンケートでは、『市街地改善の取り組み』について、「第二京阪道路や幹線道路沿道における計画的な市街化の誘導」が比較的多くなっています。

このため、広域幹線道路沿道における土地の有効利用など、沿道機能と連動した地域活性化を推進する必要があります。



第二京阪道路沿道の市街化調整区域